

「みえ紀南 2 号」における種子が少ない果実生産技術

利用対象：カンキツ栽培農家

三重県開発の新品種「みえ紀南 2 号」は 2 月に成熟する中晩柑です。見た目が美しく食味も優れる品種ですが、種子の多いことが問題であるとされてきました。このことから、「みえ紀南 2 号」の種子の少ない果実を生産する栽培技術の開発に取り組みました。なお、「みえ紀南 2 号」は雄性不稔ですが、他品種の花粉が受精されると多くの種子を形成します。開花期の樹体被覆処理が昆虫による受粉を阻害し、種子形成を少なくすることがわかりました。



開花期の樹体被覆処理で種子形成を軽減できる



収縮性のある白色防寒資材 (T 社製 0.2 mm 目) 防風ネット (4 mm 目) ■ 白色防寒資材 □ 無処理

表 1 被覆処理による種子形成軽減効果

処 理	調査 果数 (果)	種子形成 果実割合 (%)	平均種子数(個)		平均 果実重 (g)
			全体 平均	種子がある 果実の平均	
白色防寒資材	70.6	33.3	1.5	4.5	119.1
防風ネット ※	80.0	54.1	3.5	6.5	104.6
無処理	74.1	95.1	8.7	9.1	137.8

注) ※防風ネットは2014年のみの試験で、その他は2013～2015年の3ヶ年の試験結果。処理は開花直前から約2週間、樹体を被覆処理した。

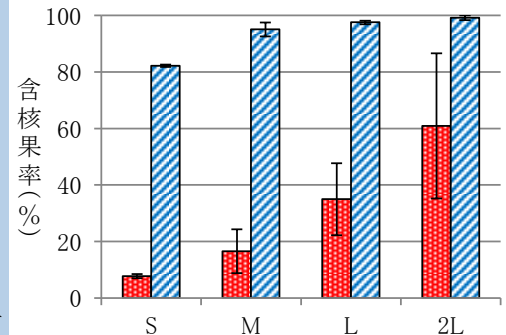


図1 階級別果実の種子形成率 (2013～2015 年の平均)

効 果

- 目の細かい被覆資材で処理するほど種子形成軽減効果が高い。
- 開花期の被覆処理による果実品質への影響は見られない。

留意点

- 単為結実が主体となるので、着果促進に開花期にジベレリン 25～50ppm を散布すると良い。
- 大玉果ほど種子形成率が高いため、8月上旬に 36 mm以上の果実を摘果し、2L 以上の大玉を排除すると種子の少ない果実にそろえることができる。
- 被覆資材の費用は資材によって異なるが、10a 当り 80,000 円～230,000 円程度必要となる。

お問い合わせ先	三重県農業研究所 紀南果樹研究室 須崎徳高、湊 英也 電話 05979-2-0008 中央農業改良普及センター 西川 豊 電話 0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm